

在日韓国・朝鮮人の民族的アイデンティティについて

——パイロット・スタデー——

リングホーファー・マンフレッド

論文要旨

現代文明の中で生活している人間は、以前より、多くの情報を得ながら、より多くの生計の道を選択することが可能になった。その傾向に伴って、本来、アイデンティティ形成に影響を及ぼす要因が増え、本来中心であったアイデンティティの要因、例えば民族、出身国（地域）、言語などが絶対的・中心的な本質を失い、または相対的に以前ほどの重要性を失ったのである。その中で民族や民族性（ethnicity）は特にいわゆる先進国において重要性を失ってきた。民族というようなアイデンティティのかわりに、本来中心でなかった要因がアイデンティティの中心となってきたことが現在の傾向である。勿論人々によってその変化の差異があるが、情報化及びグローバル化の中で、ほとんどの人々が人生の中で数多くのアイデンティティの悩み及び変化を経験している。その中で在日韓国・朝鮮人の人々が、現在どれほど自分の民族を意識し、または民族と異なるアイデンティティ要因を中心に日本で生活しているかを世代別で見ることがこの調査の目的である。

本アンケートの背景について

このアンケートの質問に対して、民族意識があまりない人々もいたが、その回答者はこの調査に協力していただいたことだけでも、ある程度の民族意識を持っているという証拠であると解釈しても良いと思う。また次に、サンプルの問題性にもふれることにするが、民族運動に関わってきた人々の友人や知り合いが回答者の中心であるため、それをふまえた上、このアンケートの結果を理解して頂きたい。そして世代別の比較

も本調査の大きな目標のひとつである。特に民族の象徴と想われてきた言語、民族名使用、伝統習慣などがどのような変容及び価値観の変化を受けてきたかを把握することが重要である。世界中の多くの移民社会の場合、三世の一部はルーツに戻るか、あるいは戻ろうとする現象を在日韓国・朝鮮人社会においてどれほどの程度で見られるかを確かめることがもうひとつの狙いである。

この調査を企画した時、一世から四世までを研究対象としたが、さまざまな理由により、その規模で実現できる余裕がなく、計画を一世と二世のみへと変更し、それなりのアンケート項目を作成した。しかし後に、調査を依頼した人々（筆者の知人と友人）の知人と友人の中で、三世の人々にも記入して頂いた。その上、二・五世（一世と二世の間に生まれた人）の数名が集まった。一世のアンケートが終了した後に、二・五世と三世の数が一世と同様の一三名に至った時点で、二・五世と三世も対象者へ含むことにした。これにより、「一種のバランス」がとれたという解釈で、二世の四六名を中心に、一世と二・五世を含む三世がそれぞれ一三名で、合計七二名のアンケート分析になった。

勿論、二・五世のグループの扱いは簡単ではない。今回は人数のバランスを考えた上、三世と同じグループに入れたが、将来、筆者が計画しているより多くの対象者の調査の際、二・五世を独自のグループとして分けたほうが良いと思う。その理由として、今回も統計的な違いがいくつかが生じたのである。例えば平均年齢の差などである。そして民族意識の形成に多くの影響を与えている家庭教育において、両親の一名が一世であるかあるまいかによって教育スタイルや内容には、両親共が一世あるいは二世の場合と比較すれば、ある程度の違いが生じる可能性があると考えられる。

今回のアンケートのサンプルが少ないため、在日韓国・朝鮮人のアイデンティティに関する「結論」を出せないが、今後、筆者が計画している、より拡大した調査の準備としてのパイロット・スタディの性質を持っていると考えて頂きたい。

民族的アイデンティティの定義について

「民族」という概念は筆者が個人の所属主義を尊重する立場で考えている。その中で、当然、在日韓国・朝鮮人の男性と結婚した朝鮮民族と血縁関係のない日本人女性は、自分の民族的アイデンティティとして「韓国的」や「朝鮮的」と表す時、それを認めるべきである。そして、例えば、そのような結婚歴をもつ日本人女性が、自分が二重の民族的アイデンティティ、即ち「日本的」及び「韓国・朝鮮的」をもっていると言

う時、それをそのまま認識すべきである。特に国際結婚数が増加している中で、その傾向が自然的であると考えるといけない。勿論、上記の場合、本人はどうしても二つのアイデンティティを呈ししないといけないことがない。場合によって、一つだけで、場合によって三つ以上も考えられる。

「アイデンティティ」という概念は近代に入ってから学問的に作られた定義である。個人的と社会的アイデンティティによく分類されている。その前者の中に民族的アイデンティティ (ethnicity) も含まれていると考えてきた。この個人の民族的アイデンティティは過去の感情と価値観に由来しながら、個人に安心感を与える性質をもっている。これによって、特に移民社会や少数者社会では不安と恐怖と差別の打開策として選択されると、社会的発展 (個人と集団) が阻止されるという考えもある。しかし反対に、筆者もそう考えているが、個人の人生の中で、生活状況の変化によって民族的アイデンティティが変化すると同時に、生活場面に応じて違った形や程度で、異なった民族的アイデンティティが表に出ると考えられる。民族的アイデンティティが存在しないと考えている研究者もいるが、筆者が個人及び社会 (集団) レベルにおいても存在していると確信を持っている。そうでなければ、バルカン半島において、セルビア人、クロアチア人等は、戦争にまで動員されるはずがなかったのではないか。前近代的な側面があるとはいえ、現代社会においても、重要性が減る傾向が多少みられながら、民族的アイデンティティが何らかの形で個人においても残っていると考えている。

在日韓国・朝鮮人のアイデンティティ研究について

一九八〇年代に入ってから、在日韓国・朝鮮人のアイデンティティに関する研究がいくつかが実施された。それぞれについて評価をせず、全体的それを見ると、各々の研究対象についての成果があるとはいえず、サンプルの対象あるいはアンケートの回収率の低さを考えると、在日韓国・朝鮮人社会のアイデンティティの現状を把握していると言えるのだろうかという疑問が残る。調査対象とならない人々や回答しない人々の人数が多いほどその疑問が強くなる。本調査もその問題性を持っている (上記説明) が、筆者が将来の調査でその問題性をなるべく減らす方法を探ることが重要課題であると考えている。または、さまざまな理由により回答しない人々のうち、例えば、日本人化していることや日本人として生きようとする人々が少なくないと言うことが充分推測できる。

アイデンティティに関して、例えば、四タイプモデルを使用する研究を見ると、全体の傾向を示す目安になるが、タイプが重なる人々も多
いと考えられると、回答者のアイデンティティだけでなく、その変化の過程も充分把握できないことになる。本調査または、特に将来の拡大し
た調査はその変化を把握することを目標とする。(必ずしも同化型への傾斜が最終段階ではないことが、今回の回答でも分かった。)

四タイプより二世と三世のアイデンティティが多様性を持つことを認めながら、サンプル等の上記の条件を考えると、今までの研究が実態を
どれほどの程度で把握しているのだろうかという疑問がある。しかし、この問題の解決は極めて難しい(不可能かも知らない)と筆者も良く分
かっている。

本調査のもうひとつの目標は、「自分が日本人である」、または韓国・朝鮮人の民族性を余り持っていない回答者が、どのような形でその民族
性がまだ存続しているかを突き止めることである。将来アンケートの項目を増やせば、その実態をより鮮明に把握できると思う。

筆者は、さまざまな社会の少数民族や移民社会を見た末、一〇年ほど前から、二世・三世の世代では完全同化という段階が不可能ではないか
と思うようになった(部分的にしろ、本人が場合によって意識せずに、本来の祖先の民族文化が残るということ)。しかし、それを実証するた
め、対象者全員あるいは問題のないランダム・サンプリングによってなるべく多くの対象者を把握する調査が望ましいが、上述の状況を考える
と難問であるに違いない。

〔回答者の民族性 (ethnic identity) を把握するため、次のような情報分析が必要と考えてよいと思う。〕

1. 自己アイデンティティ化という過程の背景と原動力
2. 自民族文化に関する知識
3. 自分の民族集団の所属及び文化に關する好み、考え方、価値観等

1. から3. までに主観的な要素が中心であっても、客観的な要素も存在する。だが後者の場合、出身とか名前が良く挙げられが、在日の国際
結婚率の高さと日本名と本名の使用状況を見た場合、客観的な情報の重さがそれほどないと解釈できることが考えられる。アンケートの項
目は特に上記の1. と3. を中心に作成された。

今回のアンケート項目及び集計における問題性

- (イ) 一世の高齢・高齢のためアンケート項目の理解や記入が難しいこと。
- (ロ) 「二・五世」…上記の分類の仕方だけでなく、言語実態のなじみがないため（一・五世という表現もあるようだ）、回答者の戸惑いがあった。だが、筆者が上記の理由で、独自のグループとして考えるべきと思っている。同じように、二世と三世の間で生まれた子供が、サンプルの大きい調査の際、独自の三・五世として考えるべきであろう。勿論、そのような拡大した調査の場合、今回できなかったクロス集計、因子分析、分散分析等を使って、単純集計と違った、世代別と関係のないグループが見られることが充分考えられる。
- (ハ) 性別集計…今回の調査では充分実施していないが、男女別の統計の必要性を感じるようになった。例えば一世の大半が女性であったことを考えると、伝統的な家庭で育てられた場合、学歴が低いとはいえ、民族性が家庭内で強く守られる（外部社会との接触が少ない）ということも配慮しないとけない。それによって一世の男女の答えだけでなく、そのような家庭で育てられた二世にも影響を与えたのではないかと思う。または、その伝統的価値観が二世、三世などでは、男女別の統計で現れるかどうかをサンプルの大きい調査で追求すべきと考えている。
- (ニ) そして今回のアンケートでは三つの重要な質問をしなかったことが問題である。一つ目は、一世の来日の時期、二つ目は回答者の職業（過去、現在）及び回答者の両親の過去の職業全て及び日本に来る以前の全職業の情報に関する項目。一部の回答者にそれを記入していただいたが、全体を把握ができない。三つ目は、韓国での留学や観光によって民族意識に影響が見られるかどうかという項目の件である。拡大したアンケートの際、このような質問を加えることだけでなく、全体において、勿論、今回より多くの項目、またはより細かい内容の質問になると考えている。

I. 客観的データ

問 1. 年齢

一世の年齢は70歳から85歳，二世は40歳から69歳，二・五世を含む三世は20歳から48歳までであった（48歳の2名が二・五世と三世各1名）。平均年齢は一世が76.8歳，二世は49.5歳，三世のみは28.6歳，二・五世39.5歳，三世と二・五世を含む場合33.6歳となる（以下，三世と二・五世を合わせて「三世」で表す）。

問 2. 男女別

	一 世	二 世	三 世	合 計
男 性	1	17	5	23人
女 性	12	29	8	49人
合 計	13	46	13	72人

問 5. 両親の学歴

世代別の差が鮮明に現れている。3分の1の二世が一世の親の学歴を知らないことは意外な回答であった。親の教育事情と民族意識の関連性があるかどうかを見たところ，決定的な違いのような要因がなかった。

年 間	一 世		二 世		三 世	
	父	母	父	母	父	母
0	5	5	6	13	1	0
3年以下	0	0	1	3	0	0
3年—6年以下	0	0	2	2	0	0
6年	1	0	7	8	2	5
9年	0	0	3	2	4	2
12年以下	0	0	1	0	0	0
12年	0	0	2	0	6	5
12年以上	0	0	3	0	0	0
その他	0	0	0	1	0	0
分からない	7	8	20	16	0	0
無記入	0	0	1	1	0	1

問 7. あなたご自身の学歴

	一 世		二 世		三 世	
	男	女	男	女	男	女
1. 朝鮮半島	0	0	0	0	0	0
2. イ) 日本人学校のみ						
0年	0	5	0	0	0	0
6年以下	0	1	1	1	0	0
6年	0	1	0	2 (1)*	0	0
9年 (10年)	1	0	5 **	3	0	0
12年	0	0	4	11 (3)	2 (1)	3
12年以上	1	0	5	3 (2)	1	3
無記入	0	1	1	1	0	0

* () 内は民族学級も受けた人数

** 10年間の教育を受けた男性1名を含む

一世は朝鮮半島で教育を受けていないことが注目すべき点である。ここも世代別の学歴の向上が見られる。二世と三世の両方の場合、男女の差がほとんどないことが注目に与える。

	二 世		三 世	
	男 (2名)	女 (6名)	男 (2名)	女 (1名)
イ) 日本人学校+ロ) 民族学校 (数字は年数)	6+3, 15+1	3+6, 3+9, 5+9 6+3, 6+6, 9+5(*)	8+4, 9+5	3+9
ロ) 民族学校のみ (年数) 合計 (2名)		6 (1名)		12 (1名)
ハ) 夜間学校のみ 合計 5名 (年数)	一世 (女性5名) 僅か, 1, 3年 (2名), 5年		二世 (女性1名) (*+4年)	

*二世の1名はイ) とハ) の合計18年の学歴を持っている

民族学校のみに通っていたのは女性2名だけで、日本人学校と民族学校両方を通った人々の場合、女性が男性より長く民族学校で在籍したことが良く分かる。それが女性に対する教育観の表れであると解釈しても良いと思う。

イ) の場合、三世の男性の比率が高いであるが、サンプルが少ないため、一般化することができない。

夜間学校のみ学習したのは一世の女性だけであった。

問10. 結婚している人は一世の11名、二世の39名、三世6名。その他に、過去結婚していた人は一世の1名 (配偶者は韓国籍)、二世の4名 (配偶者は韓国籍3名、朝鮮籍1名) 未婚の人は二世の3名と三世の7名 (一世の1名が無記入)。

結婚している人の配偶者の国籍は世代別下記の通りである。

	一 世	二 世	三 世	合 計
韓 国	11	30	4	45
朝 鮮	0	7	0	7
帰 化 者	0	0	0	0
日 本	0	2	2	4

問12. あなたの国籍は

	一 世	二 世	三 世	合 計
韓 国	13	37	11	61
朝 鮮	0	7	0	7
帰 化 者	0	1	1	2
日 本	0	0	0	0
無 記 入	0	1	1	2

回答者の2名が帰化者であった。「日本」と言う項目は元々在日外国人でない意味で使用している。しかし、前の世代で帰化したかどうかを把握するため、別の聞き方も必要であると思う。

二世と三世が日本人と国際結婚したのは各2名であるが、比率から考えれば三世のほうが高い。25年ほどまえから日本国籍の相手との結婚率の向上がこの回答の結果にも見られる。

II. 主観的データー

A. 自己アイデンティティ

問14, 15, 16は自分のアイデンティティに関する自覚はどのようなものであることと同時に多様性のある（複数）のアイデンティティを表現できる場として問15.を提供した。結構多くの方はそれに答えたことになった。

そして問16.は過去の違ったアイデンティティを持っていたかどうかを把握する目的で設けた。アイデンティティが人生の中で変化することが充分考えられる。多くの回答者が20年前と違ったアイデンティティを持っていたことが判明した。20年前と言う時点を決めたのは、本来一世と二世を調査対象と考えた上で設定したことと、1980年ごろ、在日韓国・朝鮮人の権利獲得運動が70年代からある程度まで活発になったが、在日社会全体には大きな意識変化がなく（日立裁判を始め、運動に関する情報を知らない人もいた）、民族団体などの所属意識もまだ硬直していた側面が多く見られたこと等を考えた上で1980年を選んでのである。そして日本社会とともに在日韓国・朝鮮人社会がまだあまり国際性を持っていなかった時期で

在日韓国・朝鮮人の民族的アイデンティティについて

もあった。1980年代に入ると指紋押捺拒否運動によって、権利獲得運動が始めて大衆運動的性質を持って、国際的にもそれを大きなスケールで訴えるようになった。

問14. あなたは自分の現在のアイデンティティとして（自分が何人であること）どれが一番適切であると思っていますか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1.a. 韓国人	12	6	1	19
1.b. 朝鮮人	0	4	0	4
1.c. 韓国・朝鮮人	0	1	1	2
2.a. 在日韓国人	0	8	1	9
2.b. 在日朝鮮人	0	6	1	7
2.c. 在日韓国・朝鮮人	0	3	2	5
3. 在日コリアン (KOREAN)	1	9.5	1	11.5
4.a. 韓国系日本人	0	2.5	1	3.5
4.b. 朝鮮系日本人	0	0	0	0
5.a. 日本系韓国人	0	0	0	0
5.b. 日本系朝鮮人	0	0	0	0
6. 日本人	0	0	0	0
7. 地域の人間	0	0	0	0
8. 地球人	0	1	1	2
9. 人間	0	3	3	6
10. その他	0	0	0	0
11. 分からない	0	2	1	3
無記入	0	0	0	0

問15. 上記の問14.の中から二つを選択すれば一番の次はどれでしょうか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1.a. 韓国人	3	2	0	5
1.b. 朝鮮人	1	0	0	1
1.c. 韓国・朝鮮人	0	1	0	1
2.a. 在日韓国人	6	9	2	17
2.b. 在日朝鮮人	0	3	1	4
2.c. 在日韓国・朝鮮人	0	1	1	2
3. 在日コリアン (KOREAN)	1	10	0	11
4.a. 韓国系日本人	0	4	2	6
4.b. 朝鮮系日本人	0	0	0	0
5.a. 日本系韓国人	0	4	0	4
5.b. 日本系朝鮮人	0	0	0	0
6. 日本人	0	0	0	0

7.	地域の人間	0	3	4	7
8.	地球人	0	3	0	3
9.	人間	0	2	2	4
10.	その他	0	0	0	0
11.	分からない	1	1	0	2
	無記入	1	3	1	5

問16. 上記の14.の質問を20年前に受けていた場合、答えは何番だったでしょうか。

	一世	二世	三世	合計	
1.a. 韓国人	10	6	1	17	
1.b. 朝鮮人	1	5	1	7	
1.c. 韓国・朝鮮人	0	0	0	0	
2.a. 在日韓国人	0	9	2	11	
2.b. 在日朝鮮人	0	3	0	3	
2.c. 在日韓国・朝鮮人	0	4	1	5	
3. 在日コリアン (KOREAN)	0	2	0	2	
4.a. 韓国系日本人	0	1	2	3	
4.b. 朝鮮系日本人	0	1	0	1	
5.a. 日系韓国人	0	1	0	1	
5.b. 日系朝鮮人	0	0	0	0	
6. 日本人	0	1	0	1	
7. 地域の人間	0	0	0	0	
8. 地球人	0	2	0	2	
9. 人間	0	0	4	4	
10. その他	0	1	0	1	
11. 分からない	1	2	0	3	
	無記入	1	4	2	7

一世の場合は、アイデンティティの変化がほとんどなく、在日韓国人より、韓国人という意識のほうが強いと言うことも約半数である6名の回答で分かる。

二世の場合は、一世より多様な価値観が見られる。特に注目すべきは、一世や三世と違って「在日コリアン」という定義をほぼ独占している(14.と15.)。しかし20年前は僅か2名がそのように考えていた。たしかに、その時期からこの表現が使用され始めた。

または4.a.の韓国系日本人と5.a.の日系韓国人の4名及び地球人、地域人、人間と言うような民族概念から離れたアイデンティティを持つことが、二世の多様性を証明する。

「在日韓国・朝鮮人」と言う概念は比率から見れば三世の2名で一番高いが、全体を考えると、研究者がよく使用されている概念でありながら、在日の社会では定着しているとは言えない。

在日韓国・朝鮮人の民族的アイデンティティについて

三世の特徴として「人間」や「地域の人」と答えた人が多く「民族（中心）離れ」が進んでいると分かる。「日本人」という答えが全くなかったが、「韓国系日本人」と答えた世代では、三世が一番比率が高かった。

二世の「在日韓国人」や「在日コリアン」から三世の「地域」や「人間」という概念へ、民族所属意識から離れる傾向が見られると解釈してもよいと思う。

20年前と現在との比較の中で地域がゼロ、世代別の個人の現在との比較をすると、1世は2名のみ変更（ $1b > 1a$, $1a > 3$ ）、三世は3名（ $1a > 3$, $1b > 2b$, $2c > 8$ ）であったが、二世の半分以上の場合、変化が見られた（ $1 > 9$, $b > 2c$, $2c > 2a$, $2a > 3$ |7名|, $3 > 9$, $6 > 1$, $6 > 4$ 等）。二世が置かれている状況の特徴が見られるのではないかと考えている。

B. 民族性の実態と日常生活における意識（体験）について

問17. あなたは、どの程度、民族性（意識）を持っておられますか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. 強く持っている	8	17	6	31
2. やや持っている	3	21	4	28
3. どちらとも言えない	1	2	1	4
4. あまり持っていない	0	3	1	4
5. 全く持っていない	0	1	0	1
6. その他	0	1	0	1
無記入	1	1	1	3

一世と二世の答えではあまり差がないが、三世の10名の意識の高さは問14.の答えと矛盾しているように見える。これは民族意識をもちながら別の概念（地域、人間、地球人）を中心に自分のアイデンティティを考えていると解釈してもよいと思う。

しかし、その傾向（下記の質問に対する答えを含む）が、今までと全く違った解釈の「民族性」を意味することが充分考えられるし、今後より深く追求すべき課題である。

問18. 自分の民族性のありように一番影響を与えたのは何ですか。

この質問に対して数多くの回答者が二項目を選んだ。その人数を全体数の後の（ ）に入れた。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. 家庭教育	2	18 (13)	4	24 (13)
2. 学校教育 a. 民族学校	0	3 (1)	0	3 (1)
b. 日本人学校	0	6 (2)	2	8 (2)
3. 地域社会の同胞	5 (1)	8 (3)	2	15 (4)

4. 在日本大韓国民団, 在日本朝鮮人総聯合会	1 (1)	7 (2)	1	9 (3)
5. 民族系クラブ, サークル等	0	2 (1)	1	(1)
6. 日本社会の差別的・同化的体制(圧力)の結果(反動)として	3	13 (2)	0	16 (2)
7. その他	3	3 (2)	2	8 (2)
無記入	0	4	1	5

1名を除いて、二重の答えは二世のみであった。家庭教育と日本社会が一番決定的であった。そして所属団体の影響も二世の場合一番強かったようである。

三世は差別をあまり経験しないため家庭教育が一番影響が大きかった。

問19. 日常生活の中で自分の民族性を意識することがありますか。

	一世	二世	三世	合計
1. しばしば	8	22	5	35
2. ときどき	2	16	7	25
3. どちらとも言えない	1	3	0	4
4. あまり	1	3	1	5
5. 全く感じない	0	0	0	0
無記入	1	2	0	3

世代別の大きな差がないが、三世も比率がこれほど高いことが注目すべき点である。しかし18.の三世の回答を見ると、この日常的意識化が民族性の形成には影響を与えていないようであり、差別的な性質を持っていないと分かる。

しかし日本名のみを使用する回答者の13名でも、「全く感じない」と答えた方が1名もいなかったことが注目すべき点である。

問20. 日常生活の中で、どのような場面で自分の民族性を意識しますか。

a. 良い感じの時	民族文化, 習慣, ニュース, スポーツ, 家族との会話
b. 悪い感じの時	法的・社会的差別, 犯罪ニュース

問22. 自分の韓国語・朝鮮語の能力を評価すれば、下記に分類して教えてください。

(下記の集計で一世、二世、三世を数字でこの順番で示す。)

	読 み	書 き	話 す	聞き取り
1. 強い	0, 2, 3	0, 2, 3	2, 2, 2	3, 2, 2
2. やや強い	0, 4, 2	0, 2, 2	7, 3, 2	7, 5, 2
3. どちらとも言えない	0, 0, 0	0, 1, 0	0, 0, 1	0, 0, 0
4. やや弱い	1, 3, 0	1, 1, 0	1, 3, 0	1, 6, 1
5. 少しできる	2, 13, 2	2, 10, 2	1, 20, 2	0, 21, 1
6. 全くできない	10, 19, 5	9, 23, 5	2, 14, 5	2, 9, 6

一世は学歴がほとんどないため、読みと書きが弱いですが、一方話すことと聞き取りにおいては他の世代より優れているということがよく分かる。

二世は読むと書く力が一世より少し比率が高いとはいえ、全くできない人が約半分であることを考えると、三世より比率が悪いのである。(話すと聞き取りの場合も同様)

三世の4名ないし5名が全体的「強い」と「やや強い」と答えたが、その背景を今回のアンケートでは充分把握できなかったことが残念に思う。

問23. 韓国語・朝鮮語の能力によってその人の民族性(意識)を計ることができると思いますか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. そう思う	3	8	2	13
2. ややそう思う	2	9	2	13
3. どちらとも言えない	7	9	4	20
4. あまり思わない	0	9	1	10
5. 思わない	0	9	4	13
無記入	1	1	0	2

上記の答えでは、一世と違って、二世と三世の両方が40%弱の割合で、言語能力が民族性を計る時、それほど重要でないと考えていることが分かる。だけど二世と三世の両方を見ても、この質問に対する考えがほぼ半々の割合で分かれている。

問24. 言語能力以外で、その人の民族性(意識)を計ることができると思いますか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. はい	12	37	11	60
2. いいえ	0	4	2	6
3. どちらとも言えない	1	0	0	1
無記入	0	5	0	5

問25. 上記の問24.に「はい」と答えた場合のみ下記の中から答えを選んで下さい。

(複数回答可)

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. 韓国籍や朝鮮籍を持つこと	8	17	5	30
2. チェサ等の伝統行事を守っている	6	26	3	35
3. 同胞と結婚している	3	11	0	14
4. 本名を名乗っている	0	19	4	23
5. その他	1	6	4	11
6. 分からない	4	0	1	5
無記入	0	2	0	2

国籍、習慣、結婚、本名が重要と思われるが、一世の場合、本名が全く挙げられなかったことが下記の間26.の回答で分かる。一世の1名だけが本名のみを使用している。

問26. あなたの本名や通名の使い方はどのようなものでしょうか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. 本名のみ	1	8	4	13
2. 日本名（通名）のみ	6	7	1	14
3. 両方使用	6	29	8	43
4. その他	0	0	0	0
無記入	0	2	0	2

三世の本名使用の比率が一番高いである。一世の日本名のみを使用が多いことが日本社会の厳しさの表れだろうか。三世は上述でもすでに分かったように（ほとんど）差別を受けていないため4名が本名のみを使っている。

問27. 上記の間26.で3.を答えた人に聞きます。

1. どのような場面で本名を使っていますか。

職場、学校関係、友人、知人、法的手続、同胞の集まり、銀行

2. どのような場面で日本名を使っていますか。

日常生活、表札、法的手続、職場、友人、職場、学校のPTA

この質問に対して日本名と本名の使用がほとんど同じ環境で行われていることが分かる。

ということはアイデンティティのスイッチを生活場面に合わせないといけない状況である。

と同時に、それをする限り、本人が民族を意識しているか、または意識させられているということも言えると思う。

問28. 本名を使っているかどうかによって、その人の民族性（意識）を計ることができると思いますか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. そう思う	1	16	1	18
2. ややそう思う	1	8	5	14
3. どちらとも言えない	8	8	4	20
4. あまり思わない	1	4	0	5
5. そう思わない	2	7	3	12
無記入	0	3	0	3

二世と三世の50%前後が1.と2.を答えたことで、名前を民族性の象徴として強く意識していると言える。しかしそう思わない三世も3人ほどいることが、二世より比較的多くの三世が名前をそれほど重要視しないと解釈してもよいではないか。

または一世が、差別体験の結果として本名を使用できなかったため、本名使用を民族性を計るために重要でないと考えている。

問29. 帰化しているかどうかによって、その人の民族性（意識）の強さを計ることができると思いますか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. そう思う	1	7	0	8
2. ややそう思う	4	6	2	12
3. どちらとも言えない	5	17	5	27
4. あまり思わない	1	8	1	10
5. そう思わない	2	6	5	13
無記入	0	2	0	2

答えでは、一世と二世は比率においてほとんど差がなく、三世の場合は半分弱が帰化することの有無が民族性の強さを測る手段として考えていない。二世の場合は、約3分の1の人が同じ意見であった。世代別の帰化に対する考え方の変化が読み取れるのではないかと考えている。

問30. あなたは、在日「韓国・朝鮮人」の権利獲得運動や人権擁護活動に関わったことがありますか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. はい	2	23	5	30
2. いいえ	11	21	8	40
無記入	0	2	0	2

問31. 上記の30.で「はい」と答えた人のみお答え下さい。上記の活動にどれほど参加されたのでしょうか。

	一 世	二 世	三 世	合 計
1. しばしば	1	12	2	15
2. ときどき	1	7	3	11
3. あまり	0	4	0	4
4. その他	0	0	0	0

二世と三世の活動参加程度が高いことが分かる。しかしそれを在日韓国・朝鮮人社会一般に対して当てはまることはできない。なぜならば、上述のように、調査に協力していただいた人方々の多くは上記の運動に関わってきた方々の友人や知人であることが一番大きな理由であると考えられる。

追 記

本調査において不十分な点が多くとは言え、ある程度調査の目標を達成することができたと筆者が考えている。世代別の民族的アイデンティティの多様性及びその内容における比重の相対化という傾向が見られた。または、日常生活において民族が意識化されることのある三世が、一世と二世が経験してきたほどの差別体験を持っていないとよく分かった。言い換えれば、差別がなくなれば、民族的アイデンティティが必ずしも減少するではないと言えるかもしれない。だがサンプリングが小さいため、将来に計画している拡大した調査を通じて、今回見えた傾向や現象がどれほどの有効性を持っているかどうか証明されると期待している。その際、在日韓国・朝鮮人の二重的（韓国・朝鮮的と日本的）アイデンティティの相互性及び実態をより明確に把握できるようなアンケート項目を加えるように実施しようと考えている。その場合、勿論、今回できなかったクロス集計、因子分析、相関等のデータ処理を導入し、より正確な分析が可能になるように計画している。

在日韓国・朝鮮人の民族的アイデンティティについて

問18. 自分の民族性のありようが一番影響を与えたのは何ですか。次の中から選んで下さい。

1. 家庭教育
2. 学校教育
- a. 民族学校
- b. 日本人学校
3. 地域社会の同胞
4. 在日本大韓国民, 在日本朝鮮人総連合会
5. 民族系クラブ, サークル
6. 日本社会の差別的・同化的体制(圧力)の結果(反動)として
7. その他

問19. 日常生活の中で自分の民族性を意識することがありますか。

1. しばしば
2. ときどき
3. どちらとも言えない
4. あまり
5. 全く感じない

問20. 日常生活の中で、どのような場面で自分の民族性を意識しますか。

(問19.で 5.を答えた方は除きます), 具体的に述べて下さい(複数回答可)

- a. 良い感じの時
- b. 悪い感じの時

問21. 現在、自分が一番愛着のある場所(グループなど)はどれでしょうか。

1. 家族
2. 友人
3. 市域社会
4. 職場
5. 民団, 総連
6. 在日韓国・朝鮮人のぶんか団体(グループ, サークルなど)
7. 在日韓国・朝鮮人が中心となっている NGO, NPO
8. 日本人が中心となっているグループ, サークル
9. 日本人が中心となっている NGO, NPO
10. その他

問22. 自分の韓国語, 朝鮮語の能力を評価すれば, 下記に分類して答えて下さい。

1. 強い
 2. やや強い
 3. どちらとも言えない
 4. やや弱い
 5. 少しできる
 6. 全くできない
- イ) 読み
- ロ) 書き
- ハ) 話す
- ニ) 聞き取る力

問23. 韓国語, 朝鮮語の能力によってその人の民族性(意識)を計ることができると思いますか。

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 思わない

問24. 言語能力以外で, その人の民族性(意識)を計ることができると思いますか。

1. はい
2. いいえ(理由を述べて下さい)

問25. 上記の問24. で「はい」と答えた場合のみ下記の中から答えを選んで下さい。(複数回答可)

1. 韓国籍や朝鮮籍を持つこと
2. チェサなどの伝統行事を守っている
3. 同胞と結婚している
4. 本名を名乗っている
5. その他 (具体的にお答え下さい)
6. 分からない

問26. あなたの本名や通名の使い方はどのようなものでしょうか。

1. 本名のみ
2. 日本名(通名)のみ
3. 両方使用
4. その他

問27. 上記の問26. で3. を答えた人に聞きます。(具体的に述べて下さい)

1. どのような場面で本名を使っていますか
2. どのような場面で日本名を使っていますか

問28. 本名を使っているかどうかによって、その人の民族性(意識)を計ることができると
思いますか。

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. そう思わない

問29. 帰化しているかどうかによって、その人の民族性(意識)の強さを計ることができると
思いますか。

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. そう思わない

問30. あなたは、在日韓国・朝鮮人の権利獲得運動や人権擁護活動に関わったことがありますか。

1. はい
2. いいえ

問31. 上記の問30. で「はい」と答えた人のみお答え下さい。

上記の運動や活動にどれほどさなか参加されたのでしょうか。

1. しばしば
2. ときどき
3. あまり
4. その他

*ご協力ありがとうございました。

文献目録

- * Banton, Michael, "Racial Consciousness", 1988, New York, Longman Inc.
- * Bernal, Martha E., Knight, George P., eds., "Ethnic Identity", 1993, State University of New York Press, Albany, New York
- * Capozza, Dora, Brown, Rupert, eds., "Social Identity Processes", 2000, Sage Publication, London
- * Dittrich, Eckhard J., Radtke, Frank-Olaf, eds., "Ethnizität", 1990, Westdeutscher Verlag, Opladen
- * Dunn, Robert G., "Identity Crisis", 1998, University of Minnesota Press, Minneapolis
- * 過放 (Guo Fang), 「在日華僑のアイデンティティの変容」, 一九九九, 東信堂, 東京
- * Fishman, Joshua A., "Language and Ethnicity", 1989, Multilingual Matters Ltd, Clevedon, Philadelphia
- * 福岡安則, 金 明秀, 「在日韓国人青年の生活と意識」, 一九九七, 東京大学出版局, 東京
- * 井上俊他編, 「差別と共生の社会学」, 一九九六, 岩波書店, 東京
- * 石川 潤, 「アイデンティティ・ゲーム」, 一九九二, 新評論, 東京
- * Jobu, Robert Masao, "Ethnicity and Inequality", 1990, State University of New York Press, Albany, New York
- * Organista, Pamela Balls, Chun, Kevin M., Marin Gerardo, eds., "Ethnic Psychology" 1998, Routledge, New York
- * 朴 一, 「〈在日〉と「生き方」」, 一九九九, 講談社, 東京
- * Ryang, Sonia, ed., "Koreans in Japan", 2000, Routledge, London and New York
- * 関根政美, 「エスニシティの政治社会学」, 一九九四, 名古屋大学出版会, 名古屋
- * 田丸徳善他編, 「国際化時代のアイデンティティ」, 一九九八, 春秋社, 東京
- * Waters, Mary C., "Ethnic Options", 1990, University of California Press, Berkeley and Los Angeles